

コラム 55 ー 第二次上海事変

通州事件、大山中尉事件に引き続き、さらに上海の在留邦人を守っている日本海軍の陸戦隊を中国軍が攻撃してきたため、日本政府は、8月13日の閣議で、陸戦隊と在留邦人保護のため、2個師団の上海派遣を決定します。軍令部総長がこの決定を陛下に奏上した時、ひたすら不拡大を念願してこられた陛下も「もうこうなったら止むを得んだらうな。軍令部はそう思っているのだらう。かくなりては外交にておさむることは難しい」とのご感想を侍従武官に漏らされたということです。

その後、9月に3個師団、さらに10月に3個師団を逐次投入し、抗州湾上陸を敢行して、第二次上海事変を終えます。こうして上海方面を制圧したあと、逃げるシナ軍を追撃する形で南京戦へと展開していくことになります。上海事変においては、1936(昭和11)年4月、蒋介石は、ドイツとの間に「パブロ条約」なる秘密条約を結び、第一次大戦の名参謀長といわれたゼークトをはじめとするドイツ軍人を多数雇います。これにより、上海事変で日本軍は大苦戦を強いられ、戦傷者も4万人を超える数に上りました。上海事変は、まさに、中国の日本に対する侵略そのものであり、日本軍による日本人居留民を守るための戦いでした。